

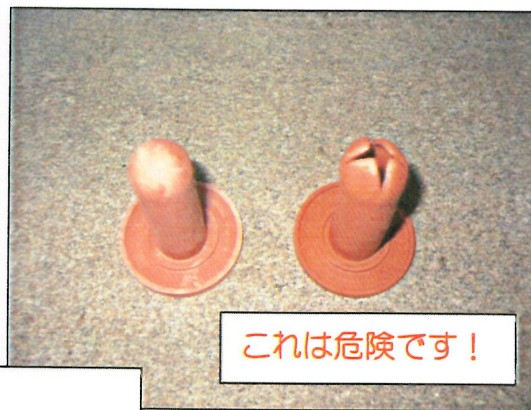
中春のT君！生後3日以内の哺乳では、特に誤嚥性肺炎に注意が必要です。上手に飲めなくて時間がかかる子牛も多いと思いますが、飲みやすいように哺乳瓶の乳首の穴の大きなものでやるのは危険です。良質な初乳を十分給与したとしても、肺炎を発症してしまったら、その後も肺炎を繰り返しやすく、逆に手のかかる子牛になってしまいます。また、残念ながらそのような子牛は正常な発育も期待できません。生後3日以内の子牛の哺乳には時間がかかるものです。毎日分娩があって本当に大変だと思いますが…、頑張りましょう！

先日、分娩房近くで蹄病治療中に、産まれたばかりの子牛が立ち上がり、母牛の乳房を探し、乳房に吸いつくまでを観察しました。母牛は優しくリッキングし、子牛は一生懸命初乳を飲む。私は引き離すことは出来ず、しばらく観察させてもらいました。そして思わずシャッターを！

自然な子牛の哺乳時の姿勢は、この写真のように頭部が背線よりも下にあり、美しいS字カーブをしています。絶対誤嚥は無いだろうな～。哺乳瓶で給与する際もこのカーブを意識しながら与えてみてはどうでしょう。また、ねかせたままの哺乳も誤嚥しやすいので注意してください。



カーフサービスでは子牛によって哺乳瓶の乳首を使い分けています。通常は③を使用していますが、来たばかりの子牛で哺乳がへたな子牛や小さい子牛には①か②を使用しています。肺炎の子牛や誤嚥しやすい子牛には②を使用しています。2週齢以降の子牛には④を使用しています。試してみたいかがでしょうか。



- ① 小さめで柔らかいゴム
- ② ピーチ：2箇所の穴から斜め方向に出る
- ③ カーフスタンダード：穴の広がっていないもの
- ④ 使用のより若干穴の広がったもの(もうじきサヨナラ)